

管材の物流条件変更

クボタ「24年問題」対応で

クボタはいわゆる「物流の2024年問題」に対応するため、1日の出荷分から物流条件を変更し、トラックからの荷卸しや着時間の指定を有償化した。対象はダクタイル鉄管・異形管、その付属品、バルブ類など。運搬車両の安定的な確保を目的とした措置で、取引先に理解を求めている。荷卸しについては荷渡

し条件を「現地集積所車上渡し」とし、荷台から荷物を下ろす費用は受取側の負担とする。また、時間指定のほか▽トラック・路線便を使った小口出荷▽一定時間を超えて待機を要した場合の車両留め置き▽特大口径（φ1600^{mm}以上）案件の個別見積対応——にも別途費用が必要になる。

3月末に猶予期間が終

了したことで、働き方改革関連法による残業時間の上限規制がトラック運転手（自動車運転業務）にも適用された。ドライバ―1人当たりの労働時間が短くなり、これを受けての人員不足の深刻化、トラック事業者の経営悪化などが懸念されている。これが「物流の2024年問題」で、荷主と事業者の連携による労働環境の改善が求められている。